

Title	走り切って、花
Sub Title	
Author	池田, 真朗(Ikeda, Masao)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1998
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.71, No.6 (1998. 6) ,p.126- 127
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	人見康子先生追悼記事
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19980628-0126

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

走り切って、花

女性初、とか、パイオニア、などという形容が、沢山に与えられたご一生であった。昭和二二年に東京女子大学をご卒業後、本塾大学に入られて民法を専攻された人見先生は、一貫してわが国の女性法学者の先頭グループを走ってこられた。ご研究テーマも、人工受精の法律問題、夫婦財産制の研究等、時代が欲した最新のものであった。そこには、「先頭を走る」自覚と矜恃が見て取れた。加えていえば、先生のおしゃれも、煙草も、車の運転も、時代に対する自己主張の表れだったかと思う。

もっとも先生は、「女として」とか「女だから」などという考え方を大変に嫌われた。研究者の世界には性差はなく、個人差があるだけだと考えておられたからであろう。

先生は、新富町で育たれた時期がおりと聞かすが、き

つぶの良さはまさに江戸っ子であった。神田で生まれて埼玉で育った、できそこないの江戸っ子である私にも、曲がったことがきらいで頼まれたらいやと言えないなどという「血」が流れているようで、私自身、それでいくつかしくじったと思うこともあったが、そのあたりを先生は温かく理解して下さったように感じている。私は先生の直言居士ぶりを頼もしく思っていたし、善し悪しをはっきり言われる人物評を、我が意を得たり、と聞いたことも一再ではなかった。

もう一つ、敬服したことは、先生が、慶應義塾を定年で退かれ、明海大学に移られてから、一層お仕事に精彩を増したように思われることである。労働省婦人少年問題審議会会長とか、二十一世紀職業財団会長などの活動に見られるように、先生のリーダーシップは各方面で遺憾なく発揮された。多くの審議会委員を務められたのも、先生のご発言が、周囲におもねることのない、的を射たものであったからであろう。

先生は、真の女性の時代の幕開けを告げる先導者の一

人として、その生涯を走り切った方である。先生ご自身としては、まだまだ多くのことをなしとげたかったと思っておられたかもしれないが、我々後進から見れば、先生の七〇年は、見事な、花の生涯であったと思うのである。

実は、先生は何年前から、我々民法部会に指定研究費を繰り返しご寄付下さった。そして昨年は、お妹様を初めて三田キャンパスにお連れになり、大学内を案内して回られたのだと、最近になってお妹様ご自身からうかがった。先生は、残される者にあくまでも気を配りつつ、静かに袂別のご準備を整えておられたのである。その、わが身を処するご意志の勁さと潔さを思う時、畏敬と哀惜の念はいやまざる。

先生、どうぞ安らかにおやすみ下さい。

法学部教授 池田真朗